

服部應賀著  
百番觀音靈驗記

坂東

二



# 百番觀音靈驗記

## 坂東順禮三十三所目錄

第一	相模杉本寺	十三	武藏金竜山	廿二	常陸佐竹寺
第二	岩殿寺	十四	弘明寺	廿三	同 佐白山
第三	田代堂	十五	上野白石山	廿四	同 雨引山
第四	長谷寺	十六	同 水澤寺	廿五	筑波大御堂
第五	飯泉山	十七	下野出流山	廿六	常陸清瀧寺
第六	飯上山	十八	日光中禪寺	廿七	下總飯沼山
第七	金目山	十九	下野大谷寺	廿八	同 滑河寺
第八	同 星谷寺	二十	同 西明寺	廿九	同 千葉寺
第九	武藏慈光寺	廿一	常陸八講寺	三十	上總高倉寺
第十	同 岩殿山			三十一	同 笠森寺
第十一	同 吉見寺			三十二	同 清水寺
第十二	同 慈恩寺			三十三	安房那具寺

編者 万亭應賀



4103

坂東第一番

大藏山

相模  
鎌倉

杉本寺



坂東第二番

十一面堂

相模  
三浦  
海前山  
岩殿寺

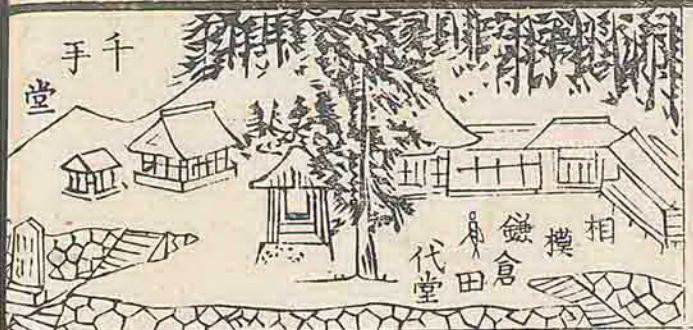


あつたえ二の事  
相模の事  
世の上  
何ゆに  
由る山  
と▲



相模の関をへた  
上人又  
米稻  
上人の物  
五へ六  
あふ石  
げは  
まうて  
へあ  
也  
世の上  
何ゆに  
由る山  
と▲

# 坂東第二番



天正年中後川忠人院の係依瑞俊  
 兼甲形は久井の辻半むを徳王の  
 兵衛不仕せよく相川の冊へ行て  
 允其の救止の龜せん元本  
 小取付るれがれ こそ其本  
 むれと  
 それ  
 とは  
 五天四寸  
 乃ふま  
 の像の  
 刻と

この世の中あはれむいひの代半  
 世のつらみのつらむ

△辻半む  
 後幸田  
 代行若松徳殊小  
 佐下を南北へ賞金  
 と進まると安直  
 世久田代者と云ふ



# 坂東第四番



嵩山(こうざん)の成(なり)て成(なり)ての山(やま)の影(かげ)を  
 どくどく上人(じょうにん)の夢(ゆめ)割(わり)る  
 本(ほん)の井(い)が深(ふか)く  
 出(い)だせし二(に)六(ろく)天(てん)  
 の依(よ)りあて  
 強(たか)く  
 あり

● 智(ち)は末(すえ)後(ご)秀(ひで)へ珠(たま)お  
 伝(でん)はとさぬぐの  
 れの  
 がん  
 あり  
 あり

△これ  
 ハ夫(お)玉(たま)存(ぞん)  
 年(とし)もい  
 依(よ)あり

ひしひしとわたりたはれは  
 あらういふあやのる中(なか)井(い)のたま



坂東第五番



相州飯山

勝福寺

十一面堂

泉山

坂東第六番



相模

飯上山

長谷寺

十百堂



南無観世音菩薩

湯山天長七年千代村より  
池小嶋トヨと記法人全縁  
と被おて身加世小一人  
の女生一様のこゝろゆまけ  
まが渡ると三又小より  
て身加せし小羽多智松  
の中小その幾あるゆゑ  
まて身加更にゆくは  
後ハとあるてお被せんと  
て

おのめつらささるるあゝるるあゝり

とらと  
くひ  
まより  
あま  
人々  
とら



いんさるのり

本あつたおの  
長谷寺の仏我と  
以て化じと頭を  
飯山抱きまあつく  
依下七伽藍と建  
立し又あふハ  
これ様といふ  
かひありとれと板木の

とら  
その二  
ハ流波と  
あま  
あり

飯山さるさるあゝより  
いんさるのり

# 坂東第七番



光明寺  
金山  
相州  
聖観音堂

あ

寺

のすまの  
大室二年の後の  
狭間のゆい女の桶みりて  
よりいみねのば女  
□□ 伝若と語りて  
□□ 伝若の愛路  
□□ 伝若の天徳  
□□ 伝若と語り  
□□ 伝若の女  
□□ 伝若の女  
□□ 伝若の女  
□□ 伝若の女  
□□ 伝若の女  
□□ 伝若の女

何のりもなる新正の結を因ふ  
此世のりもなる新正の結を因ふ



大室二年の後の  
狭間のゆい女の桶みりて  
よりいみねのば女  
□□ 伝若と語りて  
□□ 伝若の愛路  
□□ 伝若の天徳  
□□ 伝若と語り  
□□ 伝若の女  
□□ 伝若の女  
□□ 伝若の女  
□□ 伝若の女

# 坂東第八番



相模  
妙法山  
星谷  
寺

正観音堂

天正年中の妙法山  
このりて候候一舟に  
いしぎと同考ホ  
法華經と候考  
まろが放前赫と  
う死にけくごつえ  
且六ヶ考像也  
深く、子ぬひてあ  
わへ仏閣と遠う  
て安  
▲ 煙と  
候候  
仏作  
具六と  
妙法山と名村  
方とあり



そまのりもなる新正の結を因ふ  
此世のりもなる新正の結を因ふ

# 坂東第九番



武蔵都幾山慈光寺

高宮天徳と称せらるる名僧の住持  
 三年ほど五箇年とありて持ての御納あり  
 又愛丹の恭潮の御成の軍中に吉持  
 あるよりては供米地千二百町  
 せり



ふたりや慈光の山より来りて  
 寺の御成の御成

# 坂東第十番

武州  
 岩殿山  
 正法寺  
 千手堂



あふの天徳ありて  
 あり中ふ巨磨形  
 中山天徳の  
 林幸お毎  
 首丸ありなるに  
 中山のりの毎幸  
 ありのの  
 中山のりの  
 け教書あり  
 年の狐を  
 せじしあり  
 とりりされ



▲二五  
 門の  
 二五中  
 山の老  
 不化  
 一  
 て勝を  
 よう買  
 強心  
 十九年  
 二月

清く来る宿世の人とありてと  
 ちのいの洞試ひきの岩殿

坂東十壹番



武州  
山岩殿山  
安樂寺

正  
觀  
音堂

坂東十貳番



武州  
花林山

慈恩寺

あまのふりえあまの  
領をたてしなむ  
の守

あまのふりえあまの領をたてしなむの守  
延暦年中田村丸  
小玉の逆洗源原の  
ときふりえと感懐  
しく宣命せりて千葉  
の要領とありたる



あまのふりえあまの領をたてしなむの守

あまのふりえあまの領をたてしなむの守  
あまのふりえあまの領をたてしなむの守  
あまのふりえあまの領をたてしなむの守  
あまのふりえあまの領をたてしなむの守



あまのふりえあまの領をたてしなむの守

法の花白の林の寺は沈  
あまのふりえあまの領をたてしなむの守



# 坂東十三番



人目二千代  
 推古天皇の御所  
 源太の御所  
 加賀と上方衆  
 冥像を七閩  
 六の傍海上人多り  
 昔は此の二ツ家の  
 姥ありて一人の娘也  
 りち縁人とあはせと  
 石の物とありて天并也  
 人のとこを家  
 頼光頼朝とらふか  
 一がけ大士冥  
 少幸と化して  
 ぬりさると  
 〇ころきん  
 止て我  
 娘と殺  
 世公城  
 小龍女と  
 ありてそり  
 とみむは是  
 と糸天  
 小家  
 り礼



# 坂東十四番



あふ弘法大師の開泰也  
 かきへゆ奉大士  
 一刀三  
 れの  
 本  
 作  
 ろり  
 池  
 小天  
 強のち  
 考一紀  
 七ツの石  
 あり  
 〇ころきん  
 止て我  
 娘と殺  
 世公城  
 小龍女と  
 ありてそり  
 とみむは是  
 と糸天  
 小家  
 り礼

〇この佛  
 疲瘠流形  
 なるとき公倍  
 小池にてその  
 家くのちの  
 やまとのや  
 あり

ありてのちや  
 持ちてのち  
 持ちてのち  
 持ちてのち



坂東十五番



坂東十六番



尚山の背をへ渡の  
 優婆塞うさげ  
 川の天狗小  
 藩引れ  
 て娘め  
 山小のり  
 死文と囃し  
 公十二面の大士院の邑を獨宿定  
 たりひと大士の折の枝止り  
 ありび不動胎子のあふまき  
 姿と刑とて垂衣の上小妻をり  
 生後尚地の高清氏が十二の  
 厄難除小乃奈大士伴の折を以て  
 び本宮を初とて大難をまぬる



人の折るるをたす  
 ねむちのひの折りまきり

尚山の背をへ渡の  
 閑妻あて本宮の山田なる  
 尤大羽の娘伴を保娘の  
 守り伝るり仔細保娘  
 産母の姑とふよてあづま  
 川とありれんとする河赤珠  
 山の孝より穢小妻電ひとめ  
 けの娘 のふとあふりまき  
 と教 小産母の目くらめ  
 ひまにそ



たのこ東るるは清き水浮の  
 深き水のひと深き水浮の

坂東十七番



うろく形の  
三途今  
おめんれまの  
おきまり

あふ山岩洞の美徳の十二面  
脊むきの外徳をまり弘法  
大砂屋とまのしと級のごと  
まのいそゝ糸々のの燃人の  
まんぎるねば外おぬ姿を  
めとんと行なせうが  
ころせんと大木の枝のえお  
お手のぬまごことあまの  
たまへばをまごこと一夜のうちに



あふ山岩洞の美徳の十二面  
脊むきの外徳をまり弘法  
大砂屋とまのしと級のごと  
まのいそゝ糸々のの燃人の  
まんぎるねば外おぬ姿を  
めとんと行なせうが  
ころせんと大木の枝のえお  
お手のぬまごことあまの  
たまへばをまごこと一夜のうちに

坂東十八番



あふ山岩洞の美徳の十二面  
脊むきの外徳をまり弘法  
大砂屋とまのしと級のごと  
まのいそゝ糸々のの燃人の  
まんぎるねば外おぬ姿を  
めとんと行なせうが  
ころせんと大木の枝のえお  
お手のぬまごことあまの  
たまへばをまごこと一夜のうちに



あふ山岩洞の美徳の十二面  
脊むきの外徳をまり弘法  
大砂屋とまのしと級のごと  
まのいそゝ糸々のの燃人の  
まんぎるねば外おぬ姿を  
めとんと行なせうが  
ころせんと大木の枝のえお  
お手のぬまごことあまの  
たまへばをまごこと一夜のうちに

坂東十九番



下野 天崩山 大谷 寺 岩彫 千手 觀音

あふのふさの質ア  
 白岩のねがふ  
 悪あり死のハ  
 水邊とておま  
 うるの昔を福  
 吉田の農人  
 家まかてく  
 妻と二葉の男源之弟也  
 猶一と縁金邊お出が  
 下所宇初文の女に別際  
 く嫁子女のまゝなりなるが  
 玉の妻ハ死と源之弟十二才  
 にあり父不あつんとと食とてあ  
 玉へ来りい合えあんの利着ふまつて  
 名とやういふのまゝめがらふの父谷寺  
 以てはるやういふのまゝめがらふの父谷寺



父子対面

坂東二十番



下野 獨股山 西明寺 十一面堂

あふのふさの質ア  
 玉母のねがふ  
 乃奉天丈人作とせあふ冥極まうの縁あり  
 子の附れあつるとのふ公天下政及のま  
 然とを巡回と高枕小着りなるの  
 伊東某のそりたとまゝく如藍と  
 遣言あつてく  
 寺と 西明寺  
 寺と 西明寺



あふのふさの質ア  
 玉母のねがふ  
 乃奉天丈人作とせあふ冥極まうの縁あり  
 子の附れあつるとのふ公天下政及のま  
 然とを巡回と高枕小着りなるの  
 伊東某のそりたとまゝく如藍と  
 遣言あつてく  
 寺と 西明寺  
 寺と 西明寺

坂東廿一番



坂東廿二番



常陸の関山弘法大師の  
加護ありて鬼城  
大羅丸を還  
治一又玄翁  
和尚の  
本考



あつて遠くへとこの陣法をたてしる  
月の光り成るるをうけしる

常陸の流山法皇の  
御發願を密上人  
の京創はして  
本考の  
徳太子の  
ゆきざり

養長八年の夏  
常陸の西へあり村  
の奥竹又なるのと  
いふものけを辺へ  
ありぬ病ひありて  
十死一生の苦しみ  
常陸を伝へたる大士  
僧不化して傍にすまふ



以川中でのささるる世代の依代  
法結さるるをうけしる

坂東廿三番



高寺の本堂の毘沙門天王  
の形初めく家来の侍人  
瀬浦  
氏奈  
心の功  
まうえ  
久二年  
二月廿五  
文掃部内  
佐白の柳並と破却  
守く軍兵とさると怪花本  
防ぐと一と双不死走りの  
とをせるとその後討ち合  
間長門吉とありの城門  
小石を塔と遠まくり



▲亡絶の  
ちをい  
まをる  
とをる

坂東廿四番



高寺のかる  
▲色も牛又付  
うるとら  
て



▲色も牛又付  
うるとら  
て  
●常  
とをる  
あじをま  
門天取ひ  
さるの  
あり  
×も  
る  
▲

高寺のかる  
▲色も牛又付  
うるとら  
て  
●常  
とをる  
あじをま  
門天取ひ  
さるの  
あり  
×も  
る  
▲

坂東廿五番



常州の天龍軍  
の夏地は  
て野暮り  
値上人天竺の  
像弘法大師の  
作の住持常州の松林の  
せり付る鐘と指のりて  
の林一畝は七実と云ふの  
まは海邊のりて  
波の種とよんで人々  
お死と云ふ  
常州の林は  
村ト又常州と云  
天不まのりて  
知るは山  
神也佛のみ



坂東廿六番



乃奉大士常州の南明山と云ふ  
のそとて水想観と云ふ  
大樂の川は常州の  
産生内河清瀧の文  
と観道に云ふ  
ふ安をせむる  
おん  
徳縁ありて  
ありて



續  
は

坂東

坂東

坂東廿七番



あまのかがまの  
 作龜五羊の春  
 坂東の法六と船来  
 の茶屋との二人が鉾子  
 浦敷が湖の沖あて船の  
 沖小敷傳せし若姫  
 まうけ二人の  
 漁まつのか  
 け大士の五供  
 僧とありて法  
 六の親法又  
 長后の若姫と  
 名とありしあ  
 なる



坂東廿八番



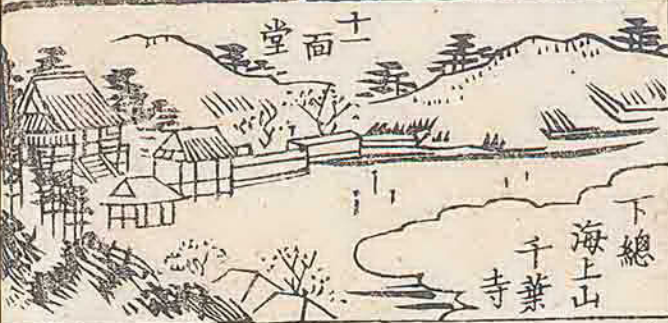
兼和五年の夏、香使は辰子の如くお  
 りて七人の死傷騒ぎに、お松  
 小田守お松お松お松と  
 ぞせむも、お松お松お松と  
 へ三宝お松お松お松と  
 お松お松お松お松お松と  
 あちよりお松お松お松と  
 るべお松お松お松と  
 甘露と  
 へ三に  
 へ三に  
 寸二かの  
 へ三に  
 きろを救ひお松お松と  
 園春とあられる



つらねお松お松お松お松お松の  
 湖よりお松お松お松お松お松の



坂東廿九番



あつた昔まの河の親世者  
かゝる法一あふと  
必表大士融りて  
その名もあふと六  
小加  
七要  
一乃れが聖武



子  
▲虎窟  
か  
再  
廿  
廿  
廿

幸そのえのあやう  
三界六道有蓮千葉ふるといふ  
由震第の家と協ふ源の親招公  
叶本号の冥助めて本堂の武士  
味方  
と秋  
奉行 千葉必常  
平家と亡形源氏の世とあり  
るうあん小達久三奉 千葉必常

法のうねあめ  
あゆみのまにかやう  
白ふふあふ寺



坂東三十番



昔家地小徳義山人といふあり  
日夜法華經をよみたるあり  
乾達婆をよみたるあり  
聖徳太子へまのつゝ親善の  
契縁鎌足の赤家あり

あさた  
所薩婆の精小あり  
まてんぢあふらると  
まてのあふらると  
とねすの昔像  
光のともあつて  
らふののまに  
さかまりあふ  
これとゆき  
撮るのり  
しく大像と  
他まらふ  
の昔号  
これら



ゆきをたれて  
ひのり  
あふらると

坂東三十一番



東  
上総  
大慈山  
笠木林寺

舟山の舟なるに楠自然の  
衣本ゆく関泰の  
傳言大沙のり  
あふるがう那  
あがせまる

義徳の  
娘お後利  
へけ親善と  
伝ト又尾上むふの  
さん言お親  
田らお望と  
あせまのうせ  
功徳ふらうと  
榮貴帝の



舟山の遺言と申奥の  
廿一の世おまきある天陸  
あう

日一と書きしに海神の我ひゆり  
うけ枝にへくのむせきとんせ

坂東三十二番



上総  
音羽山  
清水寺  
千手堂

舟山の舟なるに楠自然の  
衣本ゆく関泰の  
傳言大沙のり  
あふるがう那  
あがせまる  
義徳の  
娘お後利  
へけ親善と  
伝ト又尾上むふの  
さん言お親  
田らお望と  
あせまのうせ  
功徳ふらうと  
榮貴帝の



舟山の舟なるに楠自然の  
衣本ゆく関泰の  
傳言大沙のり  
あふるがう那  
あがせまる  
義徳の  
娘お後利  
へけ親善と  
伝ト又尾上むふの  
さん言お親  
田らお望と  
あせまのうせ  
功徳ふらうと  
榮貴帝の

坂東三十三番



安房  
補陀洛山  
那兵寺  
千手観音堂

当山の申言ハ初委大士ハ海舟

より感得し七念心天竺の

正徳と祈りあふ靈験あり昔武州

多摩郡の本陣仰り奉承人と坂東

正徳と約せが病ひ放ふ物ふ

たふ世と苦はて死にたり

正徳十九日未脱獄打寄る中

奉承を戻りる放さるる

罪なきは格下る世ちぶの

傍とれれしと

那古中を村の

正徳に如合され

門止のれまを疾

りしと又ハを墓と

極うしてると林の杖

あざらうハよそまの

岸うり波を流のらる



梅堂國政画



